

令和7年度 全国公共図書館協議会研究集会 講演

「自然災害と図書館の備え」

講師：川島 宏 (株) 栗原研究室 一級建築士

日本図書館協会 図書館施設委員会委員

同 図書館災害対策委員会委員

(複数の大学で司書課程の授業を講師として担当)

災害に関する主な著作等

『第33回図書館建築研修会 東日本大震災に学ぶ』2012年 日本図書館協会 ※1

(雑誌) LISN 『図書館の防災対策』川島宏 2012年7月・No.152 キハラ(株)

特集 東日本大震災と図書館—支援活動『図書館年鑑2012』2012年 日本図書館協会

『第37回図書館建築研修会 東北における新たな図書館の動き』2016年 日本図書館協会

(雑誌) 建築防災 2016, 11 『平成28年熊本地震による図書館の被害状況調査報告』日本防災協会

『図書館施設論』中井孝幸・川島宏・柳瀬寛夫 2020年 日本図書館協会

『図書館に求められる水害への備え』カレントアウェアネス CA1977 2021年 (加藤孔敬との共著)

(※1と※2に後述する施設のチェックポイントが記載されている)

参考図書を紹介

『図書館が危ない! 地震災害編』神谷優:著 西川馨:監修 2005年 エルアイユー

『みんなで考える図書館の地震対策—減災へつなぐ』2012年 日本図書館協会 ※2

『みんなで考える図書館の地震対策』編集チーム・編

『水濡れから図書館資料を救おう!』眞野節雄 編著 2019年 日本図書館協会

『東日本大震災 あの時の図書館員たち』2020 日本図書館協会

ポイント

- ◇ 図書館は不特定多数の人が利用し、バリアのないユニバーサルな施設づくりが求められる。
- ◇ 一番大事なことは、自分が死なないこと。
- ◇ 自然災害が増え、激甚化している。山火事・富士山噴火!? ・東南海トラフの地震の空白・線状降水帯・突風・豪雪・他
- ◇ 火災 近年日本の公共図書館では火災事例はわずか。しかし、火災は本にとって大敵。
- ◇ 地震
東日本大震災での被害は、本格再開に長い時間を要した
(熊本地震に重ねて、施設面のチェックリスト 前掲※1、P68 前掲※2、P18)
 - 1 立地の安全性を確認する
 - 過去に大きな災害を受けていないか→地震・津波・洪水など
 - 土地の歴史を伝える資料を調べる→海・川・沼地・水田であった場所は地震に弱い場合が多い
 - 震度予測資料や活断層マップ、ハザードマップを調べる

2 建物の安全性を確認する

- 構造形式は？ →鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造など
- 建設年は？ →特に 1981 年 6 月 1 日以前に着工された建物には要注意
- 耐震診断を受けているか（耐震改修促進法）
 - 安全であることを確認
 - 耐震改修を要す → 実施しているか

3 建物周辺の安全性を確認する

- がけ地や河川、石積みの古い塀・擁壁がないか（傷みのあるブロック塀にも注意）
- 最寄りの避難場所はどこか

4 家具類は転倒・転落しないか

- 書架は床や壁に固定されているか →床・壁は堅牢か、固定方法は適切か
- 堅牢な家具かどうか →古い家具や華奢な家具は専門家の診断が望ましい。
- サーバルックや2段積みの書類棚など事務室内の家具類にも対策が求められる

5 落下すると危険なものを見直す

- 高所のガラスは割れて落下すると危険 →飛散防止の方法はある。
- 高所に重量物を陳列したり吊ったりしていないか
- 配管破損による漏水は資料の大敵 →設備の定期点検や更新の工事

6 非常時の備えを再点検

- 防火戸やシャッターの妨げになるものを置いていないか
- 避難路の妨げになるものを置いていないか
- 非常時グッズを確認しよう（ヘルメット・拡声器・軍手・通信手段・懐中電灯・水他）

◇水害

○立地のリスクを知る

- 浸水ハザードマップをチェック
- 標高を調べる
- 過去の災害の記録を調べる
- 付近に河川・水路・池がないか

○タイムライン（防災行動計画）→いつ・誰が・何をするか

水害は予測可能（な場合が多い）

○水害に備える

屋上・屋根回りの清掃

（リスクが予想される場合の）止水装置

貴重な物をどこに置くか

濡れても救える資料はある

◇被災時に孤立しないために、顔が見えるつながりを大事に。